

## イギリス、フランスに見る 「認知症」「緩和ケア」に関する 国家戦略の現状

### FRANCE フランス

#### ILC フランス理事長 アルツハイマー・プラン点検会議に出席

2010年9月17日、フランスのサルコジ大統領はフランスの国家戦略である「アルツハイマー・プラン2008-2012 (Plan Alzheimer 2008-2012)」の点検のための会議を招集した。会議には、フィオン首相、ベルトラン労働・雇用・厚生大臣、シャテル国民教育・青少年・市民生活大臣、ペクレス高等教育・研究大臣などとともにILCフランスのフランソワーズ・フォレット理事長も出席した。

この会議は、2008年から2012年までの期間に認知症の人とその家族のために総額16億ユーロを投じて展開されている「アルツハイマー・プラン」の第4回目の点検会議であり、国際的なアルツハイマーデーに合わせて開催された。この席で、多職種が協働する「アルツハイマー病の人の受け入れ統合施設 (Maison pour l'Accueil et l'Intégration des Malades Alzheimer)」が17か所で成功裏に展開していることを受け、大統領はこの方法を全国で展開することを指示した。

また、2010年末までに127の在宅の人のための特別チームが生まれたほか、施設・病院でのサービスの充実が図られている。さらに、新たな専門職として「老年学による介護助手 (assistant de soin en gérontologie)」「心理神経運動師 (psychomotriciens)」「人間工学治療師 (ergotherapeutes)」が創設された。2009年2月につくられた「アルツハイマー・プラン若年患者センター (Le centre maladies jeunes Plan Alzheimer)」は国内および海外でも中心的な役割を果たすに至っていると報告された。

サルコジ大統領は首相と閣僚に対して、しっかりした対策が2012年までに認知症の人とその家族に行きわたるように怠りなく計画を進めるように指示した。

【アルツハイマー・プラン】  
Plan Alzheimer  
<http://www.plan-alzheimer.gouv.fr/>

近年、高齢社会対策に関わる重要施策について国家戦略を策定し、国民的な課題として社会全体で課題を共有しながら高齢者の生活の質を確保しようとする動きが活発になっている。ここでは、フランス及びイギリスの認知症および緩和ケアに関する国家戦略の動きを紹介する。

#### ■ アルツハイマー・プラン44のソリューション(概要)

##### ■ 認知症の人と介護者の生活の質の向上

###### 目標 1: 増え続ける介護者への支援

- 介護者の休息のための仕組みの多様化と進展、など(手段1~3)

###### 目標 2: すべての関係者の協働の強化

- すべてのアルツハイマー病の人の受け入れ統合施設 (Maison pour l'Accueil et intégration des Malades Alzheimer) を個別対応型にする、など(手段4~5)

###### 目標 3: 認知症の人とその親しい人が在宅生活を続けることを支援する

- 一人ひとりに合わせた介入を促進して在宅支援を強化する、など(手段6~7)

###### 目標 4: ケアの過程を最適化する

- 周到に準備して告知と介護の仕組みを用意する、など(手段8~15)

###### 目標 5: 認知症の人の生活の質向上のために施設の受け入れを改善する

- 要介護高齢者滞り施設 (EHPAD) の中に行動トラブルのある患者用のユニットをつくる、など(手段16~19)

###### 目標 6: 能力を評価し専門職育成を発展させる

- 「アルツハイマー病のための職業と能力に関する計画」(手段20)

##### ■ 行動のために理解を深める

###### 目標 7: 先例なき研究のための努力を行う

- 科学的研究の活性化と連携のための科学の協働体の創設、など(手段21~33)

###### 目標 8: 疫学調査を行う

- 疫学調査を実施する(手段34)

##### ■ 社会への喚起

###### 目標 9: 多くの人々に情報を提供し理解を深める

- 専用番号の電話、インターネットサイトで情報提供と地域のオリエンテーションを行う、など(手段35~37)

###### 目標 10: 倫理的な調査と行動を促進する

- アルツハイマー病の倫理的課題についての調査の場をつくる、など(手段38~41)

###### 目標 11: アルツハイマー病をヨーロッパにおける優先課題とする

- フランスを超えてヨーロッパ連合においてアルツハイマー病とのたたかいを優先課題として位置付ける(手段42~44)

## イギリスの

## 「認知症国家戦略」

National Dementia Strategy

イギリスの認知症国家戦略は、2009年2月に5年計画の戦略として保健省が発表したものである。その中には17の勧告を含んでいる。

1. 認知症への理解を向上させ手助けを得られるようにする
2. 認知症の人とその家族への丁寧な説明および良質で、早期診断のできる支援と診療
3. 認知症の人とその家族への良質な情報の提供
4. 診断後のケア、サポート、相談への容易なアクセス
5. ピアサポートと学習ネットワークの開発
6. 在宅の人への生活支援の向上
7. 介護者支援策の実施
8. 総合病院における認知症の人へのケアの質の向上
9. 認知症の人への中間ケア(退院援助・リハビリ)の向上
10. 認知症の人とその家族へのハウジング・サポート、テクノロジー、遠隔ケアの検討
11. ケアホームにおける認知症の人へのケアの質の向上
12. 認知症の人への終末期ケアの向上
13. 認知症の人の介護従事者の教育と配置
14. 医療とソーシャルケアが共同で戦略を進める
15. アセスメントと規則を改善する
16. 研究結果の公開
17. 政府が各地域サービスをサポート

この戦略を実施するための計画 (Implementation plan for the Strategy) も同年7月に発表された。

その後2010年5月にイギリスでは政権の交代があり、同年9月に至って「認知症の人のための質的アウトカム: 認知症国家戦略の事業に基づいて (Quality outcomes for people with dementia: building on the work of the National Dementia Strategy)」が発表されている。この中では認知症ケアにおいて優先すべき項目として、以下の四つが示されている。

「質の高い早期診断と介入」

「総合病院におけるケアの質の向上」

「ケアホームにおける充実した生活」

「向精神薬の使用の削減」

ここにはイギリスの政権交代後に進められている財政支出削減の影響もみられるようである。

なお、国際アルツハイマー協会の年報「World Alzheimer Report 2009」は、認知症の問題を国家の優先課題として位置付けた最初の国はオーストラリア(2004年)で、さらにフランス、韓国、イギリス、ノルウェー、オランダでも取り組まれていると報じている。

## 【認知症国家戦略】

National Dementia Strategy

<http://www.dh.gov.uk/en/SocialCare/NationalDementiaStrategy/index.htm>

## フランスの

## 「緩和ケア推進プログラム 2008-2012」

Programme de développement des soins palliatif 2008- 2012

## に五つの追加施策

2010年6月8日、フランスのノーラ・ベラ高齢者担当相は緩和ケア推進プログラムの枠内での五つの施策を発表した。その概要は以下のとおりである。

- 患者と介護者への付き添い介護師の育成開始
- フランス老年医学・老年学協会による緩和ケア研修のためのツール(冊子、DVDなど)の開発。これは在宅介護、生活援助向けのものである
- 要介護高齢者滞施設 (EHPAD) などの社会医療施設における緩和ケアの提供を改善する
- 社会医療施設における機動的チームの介入を改善する
- 緩和ケア専門の三つの施設をつくる

ベラ高齢者担当相は、これらによって緩和ケアをより速やかに展開すると述べた。

フランスのサルコジ大統領が、それまでの緩和ケアの提供が地域によって大きな偏りがあったことから、2億3,000万ユーロの規模の全国計画として「緩和ケア推進プログラム2008-2012」を発表したのは2008年の7月13日であった。その際、大統領は「フランスにはイギリスの半分以下の緩和ケアベッドしかない。フランスには尊厳のある死の予算がないと説明することはできない」と語っている。このプログラムの内容は三つの柱によって構成されている。

1. 病院における緩和ケア提供の発展と病院外の態勢の展開の追求
2. 教育と研究政策の形成
3. 介護者への介護とコミュニケーション

このプランの実施計画は具体的であり、一例をあげると、病院における緩和ケアの項では、「短期入院の緩和ケアの開発(2008年総額2,500万ユーロ、その後は2,000万ユーロ)。医療施設では緩和ケア・ユニット(USP)をつくり、少なくとも短期滞在で年間600の死亡が見込まれる。そして他の諸施設では年間200以上の死亡が見込まれる」との記述がある。このプランの特長は、具体的な将来予想を検討して実態に合わせた計画をつくらせていることである。

## 【緩和ケア推進プログラム】

Programme de développement des soins palliatifs 2008- 2012

<http://www.sfap.org/pdf/0-K2-pdf.pdf>

## 【緩和ケア推進のための新たな五つの施策】

Cinq nouvelles mesures pour développer les soins palliatifs

<http://www.hopital.fr/Hopitaux/Actualites/Actualites-generales/Cinq-nouvelles-mesures-pour-developper-les-soins-palliatifs>

## イギリスの 「終末期ケア戦略」 End of life Care Strategy 2回目の年次報告発表

2008年7月15日、イギリス保健省は「終末期ケア戦略」を発表した。内容は12の分野に分かれている。

この計画の冒頭で、計画策定の背景として以下の思想が述べられている。

死の原因や場所が変化したことによって死はテレビで見る以外には身近ではなくなり死について語り合うことはなくなっている。しかし独立した個人として尊厳を持って扱われること、また痛みがないこと、親しみのある場所で親しい人のもとで最期を迎えることが「よい死」であることは多くの人が感じている。ところが、現実には痛みの中で尊厳のない状態で死に至ることも少なくない。死にゆく人をどのようにケアするかということはケアにおけるリトマス試験紙であるといえる。

フランスの緩和ケア推進プログラムとほぼ同時期に発表された、イギリスの終末期戦略も幅広い範囲にわたっている。予算規模は2009年から2011年で2億8,600万ポンドである。

2010年7月3日、「イギリスの終末期ケア戦略」についての第2回目の年次報告書が発表された。この中で、ホスピスの環境の向上が進められたこと、医療関係者やソーシャル・ケア関係者のためのE-ラーニングシステムがスタートしたこと、全国に戦略が浸透していることなどが成果として挙げられている。

報告書の責任者のマイク・リチャーズ教授は、さらに終末期ケア戦略のニュースレターの中で、いまだにケア・ホームのスタッフが他にどうしたらよいかわからないために不必要に死を前にした人々を病院に送っていることが多いことを指摘している。そして、終末期ケアにおいては効率化を進めることと質を向上させることは相互にリンクしている、つまり多くの人は自宅での死を望んでおり高い質のコミュニティ・ベースのサービスは病院よりもコストを抑えることができるからであると語っている。

### ■ イギリス保健省「終末期ケア戦略」

1. 終末期ケアの特長をはっきりと示し、死への姿勢の変革をめざす
2. 戦略的な役割分担。さまざまなセクターと協働
3. 終末期に近い人々の特定
4. ケア・プランニング
5. さまざまなサービスが協力するケア
6. ケアへの速やかなアクセス
7. 質の高いケアの提供
8. 最期の日々と死後
9. 介護者の参加とサポート
10. 教育・訓練
11. 計画・研究
12. 財源措置

#### 【終末期ケア戦略】

End of life care strategy  
[http://www.dh.gov.uk/en/Publicationsandstatistics/Publications/PublicationsPolicyAndGuidance/DH\\_086277](http://www.dh.gov.uk/en/Publicationsandstatistics/Publications/PublicationsPolicyAndGuidance/DH_086277)

#### 【終末期ケア戦略：第2年次報告】

End of Life Care Strategy: Second Annual Report  
[http://www.dh.gov.uk/en/Publicationsandstatistics/Publications/PublicationsPolicyAndGuidance/DH\\_118810](http://www.dh.gov.uk/en/Publicationsandstatistics/Publications/PublicationsPolicyAndGuidance/DH_118810)

#### 【終末期ケア戦略ニュースレター】

NEoLCP Newsletter issue 25  
 18 September 2010 National End of Life Care Programme  
<http://www.endoflifecareforadults.nhs.uk/publications/newsletter-25>